

校長室だより

進修小学校152年目の創立記念日 7月14日

7月14日は、進修小学校の創立記念日です。学校の歴史を知っておくため、子どもたちに次のような話をお昼の給食の時間に放送しました

今から、150年くらい前の明治時代に学校という制度が確立されて、多くの子どもたちが学校に行けるようになりました。それまでは、流泉寺で寺子屋で子どもたちは勉強をしていました。1873年(明治6年)に流泉寺の「周文舎」において学校が創立されました。1874年(明治7年)には「国領小学校」に改名され、長谷、中村、柚津の子どもたちが学んでいました。棚原、野村の子どもたちは「温知校」で勉強していました。

1885年(明治18年)、2つの学校は「崇徳小学校」(すとく)として一つになります。

しかし、崇徳は天皇の名前であることを指摘され解消しました。



中国古代の書「易経」の中の「君子特に進み業を修む」の語から「進修小学校」と名付けられました。1888年(明治21)です。

進修小学校は、市内の小学校のうち地名を採用しない数少ない小学校です。

でも、学校はその時は授業料が必要でとても高かったので半分くらいの子どもが学校に行けませんでした。当時の国領村の村長、上田捨蔵さんと進修小学校の初代校長の玉島常太郎先生が、教育にとても熱心で、まず子ども全員が学校へ行けるように授業料を何とかしたいと考えました。そこで、学校がお金を持っていたら子どもたちから授業料を集めなくていいと考え、学校田をつくることにしました。国領村の人たちも地域の学校のために自分たちの田んぼや畑を寄付してくださいました。そして田んぼや畑で



収穫したものの収入を授業料にあてることで子どもたちが学校に行けるようになりました。兵庫県でも有数の「教育村」と言われるようになりました。こうして創られた田んぼのことを「学田」といい、進修校区のあちこちに分散していました。

今は学田の碑がアフタースクールの前の校内にあり、先人の思いを引き継ぎ勉学に励もうと呼びかけられています。

地域の人々は進修の名に熱い思いと誇りを持って、子どもたちの教育活動を見守ってくださっていると感じます。

学田の歴史については、5年生が総合的な学習の時間に毎年取り組んでいます。子どもたちも地域の先人たちが築いてきた学校への熱い思いを知り、地域を誇りに思いながら学習に臨んでいけるように育てていきたいです。



進修小学校の校章は、中央に「進」の字が書かれ、その周りにカタカナの「コ」の字が9個書かれています。「コ」が9個で「コク」つまり国を表しています。また、その外周は菱形でかたちどられ、その菱形の菱の音読みがリョウというところから、領を表します。

これらを合わせて「国領」といっています。その菱形は4つにわけられていて、これは4つの区（国領区、棚原区、東中区、柚津区）を表すとともに「小」の字も表しています。この校章は、昭和23年11月3日に決められています。

創立記念日にあたって、進修小学校の歴史を毎年振り返り、子どもたちにも語り継いでいきたいと思います。

※参考文献 国領区再発見
丹波市人権ゆかりの地を訪ねて（丹波市同教）